

令和3年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立蒲田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・今年度は第1学年が目標値を上回り、第2,3学年は目標値を下回っている。しかし、第2学年は、昨年度に比べて目標値に近い数値に引き上げる事ができた。第1学年時から学習習慣が身についた結果であると考えられる。
- ・全体的に技能の数値が高く出ている。授業開始時に行う小テスト等で計算練習を中心に行ったためであると考えられる。

(2) 課題

- ・第2,3学年の数学への関心・意欲・態度の数値が下回っているので、興味・関心を引くような授業を心がける必要がある。
- ・他の観点で見ると、数量や図形などについての知識・理解の数値が大きく下回っている。知識・理解が低いため、活用する問題にも正答率が低い事が考えられる。そのため、日々の授業でも知識の部分を丁寧に心がける必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	元年度結果
第1学年	目標値を若干上回っている	/	/
第2学年	目標値を下回っている	目標値を若干下回っている	/
第3学年	目標値を下回っている	目標値を下回っている	目標値を下回っている

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0.3 ポイント上回っている	1.1 ポイント上回っている	0.9 ポイント上回っている

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
2.6 ポイント下回っている。	1.1 ポイント下回っている。	2.2 ポイント上回っている。	4.3 ポイント下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
6.0 ポイント下回っている。	7.2 ポイント下回っている。	1.0 ポイント下回っている。	7.1 ポイント下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、小テスト等で前時の復習を行い、定着度合いを確認しながら次単元の内容を行う。 ・発言をさせる際には数学的用語を積極的に使わせ、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを求めるだけでなく、「なぜそうなるのか」、「どのようにしてその答えにたどりついたか」を自ら考え、説明する機会を多く設ける。そのために途中式の重要性と伝えていく。 ・1つの課題に対して、個人で考え、その後グループで共有し、最終的にはクラス全体で解決していくような授業展開の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、定期考査、毎時間の授業で振り返りを行い、自身の学習の理解状況を把握し、学習につなげられるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、単元テストを定期的に行い、授業で得た知識を活用する場面をもうける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値を出すのみでなく、解答に至るまでの過程を大切に、他者を納得させるように授業を行う。 ・第2学年では証明することが多くなるため、道筋を立てさせて問題に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間授業の振り返りを行い、授業の要点を記入させ復習に役に立てるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に定期的に小テストを行い、既習事項の定着度合いを確認する。 ・単元ごとに確認テストを行い、単元内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の解答や解き方ができる課題を提示し、多様なアプローチを考えさせる。 ・ペアワークやグループワークを通して、自分の考えを他者に伝えたり、説明したりする機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を身の回りのものや将来の進路と関連づけて、自ら学習に取り組む意欲を高める。 ・小テストや振り返りを行うことで、授業での学習内容や自身の理解度を明確にし、次の学習へつなげられるようにする。